

問 白馬高校の来年度の募集は

答 1学年2クラスの募集を要望



太田伸子議員

【白馬高校存続について】

地域高校として白馬高校の存在する重要性は。

村長 卒業生が白馬村・小谷村に就職・勤務され現在まで地域をけん引されています。高校の建物が無くなるだけでなく、白馬村・小谷村の全ての源として白馬高校が果たす役割は大変重要と考えています。

スキースポーツを中心とした人材育成と、山岳国際観光都市を目指す当地域における人材養成の推進に関しても、白馬高校が及ぼす地域経済への効果は計り知れないものがあります。

問 来年度の募集について、今後の見通しは。

村長 現在、県教育委員会の高校再編基準に抵触して、今後の見通しは。

統合、募集停止のうちから選択することになりますが、「白馬高校を育てる懇話会」では、これらの3つ以外の1学年2クラスを要望しています。

問 県教育委員会との話し合いは。

村長 県教育委員会の伊藤教育長から、白馬村・小谷村から経営と運営についても知恵を出しながら協力いただきたいというお話があり、ぜひ白馬高校が生き残る方法を皆さまと共に考え、知恵を出し合いながら努力していきたいです。

問 どのような高校にしていく考えか。

村長 インバウンド事業の成り功と、冬季観光を中心とする外国人居住者の増大、併せて国際社会の交流も盛んになり、インターナショナルな感覚を持った若者の育成が急務となつてきています。地域経済の牽引者として、社会に出てからも白馬の良さをアピールし、村の運営に携わる人材の育成、また地域から仕事と生き方を学べる場としての高校教育の充実の一つの方法として、進路に応じた中で教育を望みます。

とする外国人居住者の増大、併せて国際社会の交流も盛んになり、インターナショナルな感覚を持った若者の育成が急務となつてきています。地域経済の牽引者として、社会に出てからも白馬の良さをアピールし、村の運営に携わる人材の育成、また地域から仕事と生き方を学べる場としての高校教育の充実の一つの方法として、進路に応じた中で教育を望みます。

問 白馬高校が、地元中学生から評価されていない要因は。

教員 スキーをしている生徒の進学率は高いが、スキーをしていない生徒の大学進学が厳しいと評価されていると思つています。

問 高校再編基準に抵触しているにもかかわらず、村長の熱意、「白馬高校魅力づくり検討委員会」の答

申から再三の県教育委員会への要望書の提出、白馬高校が輩出してきた素晴らしい選手たちの功績などから、今回、県教育委員会が、白馬村・小谷村と円卓についての話し合いをしていただけることになったと思つている。今後の対応は。



多くのオリンピック選手を輩出した白馬高校

「考える会」を立上げ、早急に検討していきます。2クラスを維持し、特色ある地域高校、魅力ある地域高校にする、また白馬高校でなければ学べない、白馬高校で学びたいという目的をもった生徒を全国から集められるシステムを構築していきたいと思つています。白馬高校を存続させることに全力をあげて進めていきます。

村長 県教育委員会と一体となつて白馬高校存続にむけて、「白馬高校の将来を